

# PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

## ヴェールをぬいだ

### 胎児の世界

私達が想像しているよりもはるかに胎児は多くの能力を持っています。妊娠初期の段階ですでもうさまざまな物を聞き取り、味わい、感じ、そして反応する事が出来るのです。

約10週間で身体の組織がほぼ完成して、10〜12週目の胎児を超音波画像で見ると、新生児と全く同じ動きをしているのがわかります。違っ点と言え、胎児はまだ成長過程にあり、未成熟だという事ぐらいです。

ラクラン・ド・クレスピニ博士がこの謎にみちた胎児の世界について興味深い資料を発表しています。超音波の研究者で「これから生まれる子どものためにとるべき手段

は？」を著した博士は、シヨン・ブレネツケの教授でもあり、メルボルン国立産婦人科で避妊薬の開発発にも携わっている方で、彼は次の10項目を提示しています。

1：胎児は味覚を持っていて、特に砂糖を好みまます。母胎内で羊水を吸収しています。糖を加えれば、吸収率はさらに高くなるでしょう。

2：胎児は音や振動を聞き取り、反応します。この能力は成長と共に高まっています。母胎内で眠っている胎児は、部屋でラッパの音がしたり、母のお腹がなったりすると、すぐに目を覚ますと言われています。

3：胎児は4ヶ月ほどで、触れると反応するようになります。唇や頬を撫でると、新生児と同様に

母の胸を求めて頭を動かします。まさに条件反射です。

4：胎児は睡眠を活力源として、私たちと同じように睡眠と起床を繰り返しています。でも子宮内では昼夜の区別が困難なため、母親の睡眠時間に合わせています。

5：胎児は音を聞き分ける事もできます。アイルランドで次のような調査結果が発表されました。妊娠中、「隣人達」というミュージカル番組を見ていた母親から生まれた子どもは、より朗らかであやしやういと言われている。この番組のテーマ曲を聞くとおとなしくなるからです。おそらく、妊娠中に母親が座ってこの番組を見ていたために、子どもにもこの曲の間は静かにくつるぐのだという意識が植えつけられたので

しょう。

6：タバコは母親にはもろろん、胎児にも害をもたらすというのは周知の事実です。タバコに多量に含まれているニコチンが胎盤を通って胎児の血液にまで達するからです。母親が喫煙を始めて数分後に、胎児の心拍数が増加しだします。一般的に、母親が喫煙者の場合、ニコチン等の化学物質が発育を遅らせ、小さい子どもが生まれる傾向にあります。アルコールもまた、胎児の血液に入り込みます。あまり飲み過ぎると、成長と脳の発育に影響を及ぼすと言われています。

7：「自然の呼びかけ」つまり放尿も12週目くらいから始まります。吸収した羊水は胃を経由して膀胱にたどり着き、放尿に至ります。

娠中の胎児との関係にも  
当てはまるのではないで  
しょうか。

### NSW ニュース

8：胎児は痛みを感じ、  
そして嫌います。時として  
子宮内の胎児に注射をす  
る事がありますが、彼らは  
新生児と同じように身を  
よじつてもがきます。彼ら  
の身体に針が近づくと、危  
険を敏感に感じとって手  
でよけようとします。

9：光への胎児の反応  
は、実にすばやい物です。  
例えば、母親がビキニ姿で  
サンサンと輝く太陽の下  
にいるとき、彼らは非常に  
活発に動き始めると言わ  
れています。

10：胎児は周囲の人の  
声をも聞き分ける事が出  
来ます。毎日の接触の中で  
両親の声を区別している  
と言われています。新生児  
に話しかければ、母子の交  
流を深めると同時に、子ど  
もの情操教育にも役立ち  
ますが、全く同じ事が、妊

小さな5人の赤ちゃん

私はイギリスで有名な  
医学雑誌「ランセット」に  
掲載されたとある医師  
チームからの手紙を読み  
終えたところです。その手  
紙にはオランダのリーデ  
ンの大病院に勤務して  
いる4人のオランダ人医  
師チームが受胎促進のた  
めホルモン投与を受けて  
いる34才の女性をいかに  
治療してきたかと言う事  
が書かれていました。ホル  
モン剤の効果で彼女は妊  
娠しましたが、3ヶ月検診  
で、何と5つ子であること  
が判明したのです。記事の  
内容をここに紹介しま  
しょう。

「5つ子と判定されたこの  
患者夫妻はたいそう困惑  
して、医師に墮胎してくれ  
るように頼みました。しか  
し綿密な話し合いの結果、

5つ子を双子に減らそう  
という事に落ち着きまし  
た。」

4人の医師達は、その  
後、超音波装置を利用し  
て、女性の腹壁にそって細  
長い針を通し、今なお成長  
している小さな3人の胎  
児の心臓を次々に針で突  
き刺したという過程をと  
うとうと述べ立てていま  
す。この方法で3人を確実  
に死にいたらしめ、女性は  
後に双子の女の赤ちゃん  
を出産しました。

私は、この夫妻が双子を  
育てながら、何も思わない  
で将来すごしていけるの  
だろうかと考えます。育ち  
ゆく双子を見ながら、他の  
3人はどんな顔になって  
いただろう、男の子だった  
だろうか、女の子だっただ  
ろうか、どんな事をなしえ  
ただろうか、あの時5人出  
産して、子どもが家を一杯  
に満たしていたら、自分達  
の生活はどんな風になっ  
ていただろうかと考える

ようになるのではないで  
しょうか。

今少し想像を巡らして  
みましよう。もし医師達が  
5人のうちどれが男の子  
でどれが女の子であるか  
教える事が出来たなら、ど  
のような選択をしていた  
でしょうか。そしてもしど  
の子が金髪でどの子が栗  
毛か、あるいは黒髪か、誰  
が最も父親似なのか知り  
得たならば、全然別の双子  
が生まれる可能性はな  
かっただろうか。

そして更に、もし万が一  
この生まれた双子の女の  
子の一人が大きくなって  
非行にでも走り、両親の大  
きな悩みの種になったと  
したら、その時彼らはどう  
してあの時この子を選ば  
ずに別の誰かにしとかな  
かったんだらうと思つた  
りしないでしょうか。

一方、双子の女の子達は  
将来、自分らが生まれた事  
情や背景を知るようにな  
るでしょう。彼女らは、な

ぜ医師の突き刺した針が自分達ではなく先に他の3人の心臓に届いたのかと思つて、生存者シンドロームといったものに悩まされないでしょうか。なぜ私達は兄弟姉妹と死別しなければいけなかったのかしらと考え、非常に傷つき、両親への考え方が変わってしまったわらないでしょうか。

ジョン・C・ウィルキー  
医学博士

プロ・ライフ・ムーブメントより

日本でも下記のように新聞に掲載され、このような事がだんだん増えてきています。皆様はどの様に思われますか。

### 多胎妊娠一部を中絶

排卵誘発剤の使用や体外受精によって四つ子などの多胎児を妊娠した女性に対して、胎児の一部を中絶して残りを出産させる「減数手術」が東日本の複数の医療機関で約30例行われている事が8日、明らかになった。この手術は、昭和61年に日本で初めて行われたが学会などで認められていないため、水面下に潜る形になった。手術では、超音波診断装置を使って母胎内を見ながら、腹部または膈から針

を入れ、胎児に塩化カリウムを注入、心停止させて中絶させる。妊娠初期の8〜10週で行う。「塩化カリウムを使う方法は通常の掻爬による中絶より母体への負担が少ないし、四胎以上の場合は、妊娠を続ける」と母子双方に健康の負担が大きいと、無条件で手術している」と話している。

読売新聞 抜粋

1993 2.9

恋人に中絶するように  
言われて

Aさんが経験した2度の中絶のうち、最初の経験は15才の時でした。それは、彼女が望んだものではありませんでしたが、不安な気持ちや恥ずかしいという気持ちから母親に妊娠したことを言えませんでした。そして赤ん坊の父親といえば、彼女が中絶をしなければ二人の関係を絶ってしまうと脅していました。

「中絶が間違っていると分かっていました。」と彼女は告白しています。「中絶する前には、私は赤ん坊に話しかけ、『彼を失いたくないの』と泣いて泣いたものでした。」

「彼は、私と一緒に病院まで付いてきてくれ、待合い室で待っていてくれませんでした。でも、時が過ぎると彼は自分のしたことを

すっかり忘れてしまいました。彼が私にしたことを思うと、身の切られるような思いと激しい怒りを覚ええました。私たちは6ヶ月後に別れました。」

二人が結婚していても、していなくても、中絶させようとするのは父親なのかも知れませんが、二人が結婚していない場合には、男性は、結婚や子供の養育費に関する責任を避けるために、妊娠中絶をするようにすすめるかも知れません。また、彼は自分がお腹の中にいる子供の父親であるという自分を自分の両親に話すことを避けるためにも中絶をすすめるでしょう。

その他、子供の父親が、母親となる女性の幸福や評判を本心に心配した場合も考えられます。男性は、妊娠させたことに対して責任を感じ、女性が子供を産むことによって、よくありがちな混乱へと巻き込

まれることを避けようとしたのかも知れませんが。男性は責任をとるために、つまり何事もなかった地点に戻すために、進んで中絶にかかる費用を負担し、彼女と一緒に産婦人科へ向うことまでするでしょう。

親の中には、息子の性行動について意義を唱えな

い者もいるかも知れませんが、息子の性行動についてあまり知らないなら、親が口を出す必要はありません。しかし、ひとたびそれを証明するもの（つまり妊娠）が明るみに出されれば、自分の、息子の関わりを否定することはできません。そして、親は息子の性行動を世間に知られないようにするために、またその結果生じてくる決まりの悪さを避けるために中絶をすすめるでしょう。

二人が結婚している場合、子供の父親は経済的な理由によって中絶をすす

めることもあるでしょう。恐らく失業率が増える中で子供を養っていくことができないと感じるからです。

夫婦が年をとっている場合、妻が妊娠や出産という苦しみに耐え、18年間の子育ての責任に悩まされることを夫が望まない場合もあります。

年をとると、父親にとっても母親にとっても、妊娠を認めることは決まりの悪いことです。特に彼らの子供が大きくなっていけば、余計にそう感じられることでしょう。バースコントロールが利用可能な間は、夫婦は計画外の妊娠をしないように家族計画を立てることが望まれます。男性にとつて、中絶を受けべきだと言つのは簡単ですが、中絶に伴う結果や苦しみを受けるのは、決まって女性なのです。

(HWRF4)

## 危機

今、家庭は危機に瀕しています。というのは、世の中がその理論と実践とに基づいて、夫婦間での一致や貞操に何も報いようとはせず、生命を生み出す力に十分な価値観を置かないで、永遠的なものを深く理解せず、神聖さを持たないばかりでなく、新しく宿った人間の生命を認める事さえも拒否し、代わりに事実を覆い隠す事を許すようになってきているからです。

ヨハネ・パウロ 世

### ごく身近にある危険

『危険』それがどんな形であれ、人間はこの世の中で生きていく上で常に危険と背中合わせだと言えるだろう。地球上で最も危険な場所とは一体何処になるのだろうか？ 高速道路の上、飛行中の飛行機の中、あるいは原子力発電所の近辺、それとも地中海やペルシャ湾を航海中の船、アフリカの炭鉱の地下奥深く、大都会東京の高々とそびえ立つ高層ビルのてっぺん、様々な競技が繰り広げられるスポーツ競技場……地球上で最も危険な場所とは何処になるのか？ 実は、この中のどれでもない。驚くべきことかも知れないが、統計的に見て世界一危険な場所と言えるのは、なんと『女性の子宮の中』なのである。この、本来ならば生命が芽生え、

それを守り育てゆくはずの、胎児にとつてはより所となるべき場所が、死の部屋」と化している……これが現状だ。せっかく生命が芽生えながらも生まれる前に摘みとられ、死んでゆく胎児達……その数は年間50万にも昇る。まさに『死の部屋』だ。

実際問題として、この行為、つまり中絶を母体への何の影響もなく行うことは不可能だ。元来、中絶は『母体から赤ん坊を早期放出する』という形で定義付けがなされてきたが、今や『子宮から赤ん坊を故意に引き抜く』という解釈がされている。確かに、中絶のメリットという点を指摘する人がかなりいる。そういう中絶賛成派の人達が主張することは、出産が好まれない状況で妊娠してしまった場合、中絶を取り入れることで出産を調節可能という有用性である。しかし、彼らが大人の勝手

で生命を左右される胎児達の『生きる権利』という点に触れることはまずあり得ない。

私個人は、断じて中絶反対だ。人間の生命は神聖なもので、どんな状況であれ、その事に変わりはない。過去10年間、私は中絶問題について色々な事を調べ、学んできた。その実態を知れば知る程、私の中で中絶反対の気持ちは高まる一方だ。たとえちっぽけな存在でも、人間として生きる権利を持った胎児達、彼らを守りたい、またそうするべきだという気持ちは強まるばかりである。中絶問題は、この社会に共存する全ての人々に影響を及ぼす社会的文化的問題と言えるだろう。

我々は皆、この社会の中で生きていく上で、人間性という絆で結ばれた共同体だ。この中絶問題は、共同体である我々全員が協力し合って取り組んでいくべき問題で、実際皆が立ち上がって一致団結してこの問題に取り組んでいくことを願うばかりである。

(HWRFIA)

## 何が違うのでしょうか

ジョン・C・ウィルキー 医学博士

避妊薬（具）と墮胎薬（具）、両者の違いは何でしょうか。避妊薬（具）と呼ばれる物は人間の生命が始まらないように予防する物です。一方墮胎薬（具）は生命が始まって1週間か2週間以内に中絶を促す薬もしくは器具です。墮胎薬は生命が始まってから極小中絶を引き起こします。

かして人々を混乱させています。

一九六〇年代の初め、アメリカの産婦人科の大学教授によって「妊娠」という言葉が再定義されました。彼らによればそれはもはや精子と卵子の結合の時ではなく、むしろこの新しい生命が母親の子宮の内側に着床してから1週間後の時をさすのです。しかし興味深い事に医学関係者以外にこの変更を知る者はいないので、一体何が起きているのでしょうか。

現在、医者はIUDを「避妊具」と呼んでいます。それはIUDが子宮の壁への着床を防ぐという意味です。医者が「避妊」という言葉を使うのを聞いて、患者は精子と卵子の結合が妨げられると理解するでしょう。ここに言葉のトリックがあるのです。墮胎具を避妊具と呼び、みんなはだまされているのです。言葉の誤用の代表的な例です。

## RU-486の問題点

RU-486の安全性及び有効性に関して、医学上論議が交わされている。この避妊薬は子宮で胎児に栄養を補給するのを妨げて中絶に導く薬だ。

これを服用した二日後、患者は医師のもとで、プロスタグランジンという、子宮を収縮させて胎児を摘出する物質の注入を受ける。その結果、ほとんどの女性が大量に出血する上、その状態が10日余りも続く。又、胸のむかつき、嘔吐、腹痛、下痢などの副作用も見られる。

もし経過が良好でない場合は、患者は再度通常の中絶手術を受けなければならぬ。

たとえRUJ-486による中絶が成功したとしても、問題は依然として残る。第一に出血が40日間も続いておさまらないと言う場合も有り得るからだ。更に、この中絶方法では、患者が摘出された胎児の死体を目の前にみる事になる。そんな女性達の心理的打撃などいっさいおかないなしと言うおそれるべき実態なのだ。現代社会の一員としてRUJ-486のように危険な薬についての情報公開を強く望む。

IRLF news

## 《事務所だより》

4月：！この世に生まれる事の出来た子ども達にとっては入学、進級と心はずむ月となりました。又、生命尊重の日記念集會も開かれる月です。今年も案内状を頂いておりますので、皆様にお知らせ致します。是非、御参加下さいませ。

日時：4月24日(土)  
13：30～16：00

場所：隻葉学園同窓会館ホール(千代田区六番町二四ツ谷駅下車徒歩5分)

内容：

1．作家 出雲井

晶氏による講演「栄光と罪の軌跡」(菊田 昇の生涯)

2．優性保護法改正

の問題点

3．胎児の人権宣言の署名運動について

4．各会の活動報告

先日、「寄付をしていますがどの様なところに使

われているのでしょうか」と言うありがたい質問をお電話で頂きました。現在のところ、総支出額の七割までは、皆様から寄せられた暖かいお心に支えられて、この運動は運営されております。そのうち定期的にいる費用はニューズ発行に伴う印刷、及び切手代です。そのほかにはパンフレット、ビデオ……。尚、今月から、事務所に印刷機とコピー機が5年のリースで入りました。プロ・ライフへの御質問や御意見をいつでも喜んでお受け致しております。

日本プロ・ライフ・

ムーブメント